絵画部分　修理報告書（抜粋）

株式会社　文化財保存

Ⅰ.名称等

1．名称　　黒漆厨子　千体観音像
2．員数　　１基　７面の内３面（正面・右側面・左側面）

Ⅲ.作品の構造等

1．品質形状　絹本著色
2．法量

	修理前	修理後
背　板（縦）	56.0［cm］	55.9［cm］
（横）	51.9［cm］	51.8［cm］
右側面（縦）	56.0［cm］	55.9［cm］
（横）	14.6［cm］	14.7［cm］
左側面（縦）	56.0［cm］	55.8［cm］
（横）	14.6［cm］	14.8［cm］

3．仕様

	修理前	修理後
表装形式	厨子内貼り付け	厨子内貼り付け
本紙料絹/補修絹	（写真）	電子線劣化絹 経：21中70枚2ツ入 緯：21中×2本　100横 （京都　廣信織物製　サンプル5）
肌裏紙	楮紙　（サンプル1）	楮紙（岐阜　長谷川製　サンプル2）
		楮紙（岐阜　長谷川製　サンプル3）
増裏紙	—	炭酸カルシウム入り楮紙 （高知　田村製　　サンプル4）
下張り	—	２種４層（田の字1層、浮け3層） 楮紙（富山　宮本製　　サンプル6）

貼り込み後　厨子全体

別保存　収納箱

左側：　左右側面断片のマット装

右側：　解体時の剝落片、旧釘、本紙断片、
旧肌裏紙など

Ⅳ.修理仕様

本紙の概要

黒漆厨子に千体観音像が目の詰まった絵絹を用いて描かれている。絵絹は経年による劣化で硬化している。料絹の剥落も見られ露出している裏打紙も茶変色しており劣化が進んでいると考えられる。欠失箇所からの観察では下張りは施されていないと思われる。裏打紙についても１層もしくは２層で貼り込んでいるものと思われる。過去の修理により側面及び正面の扉から切り取られた本紙片が側面に貼り付けられている。織り目の異なった料絹での復元的な補填箇所や絵具が剥落した箇所への補彩なども見られる。埃や虫卵の付着が著しく見られる。

・料絹の欠失

修理前の状態

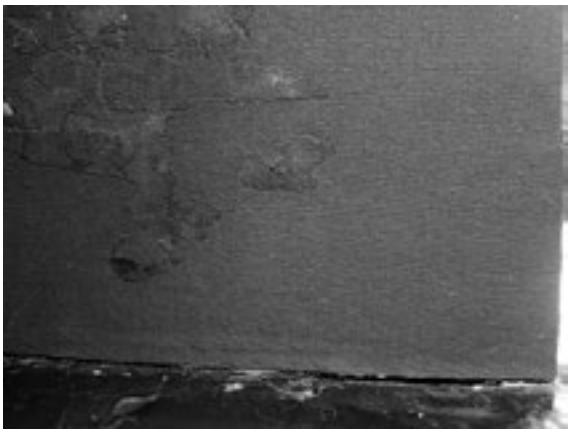
経年の劣化により料絹が剥落している箇所が画面下部に多く見られる。厨子面との接着が低下し浮きが生じている箇所が見られる。

修理方針

新たな補修絹は本紙料絹の織り目に合わせた電子線劣化絹で補填を行う。

修理前

修理後



・**過去の修理跡**

修理前の状態

側面扉及び正面扉に本紙料絹を刃物で切り取った痕跡が見られ、側面の本紙欠失箇所に一部料絹が重なった状態で貼られている。また本紙料絹とは異なる織り目の絵絹で描かれた復元的な補絹が、側面及び側面扉に見られる。絵具が剥落した箇所に補彩が施されている箇所が見られる。

修理方針

切り取って貼られている本紙片については取り外し、修理方針を所有者と協議し決定する。

修理前

修理後

・**汚れの付着**

修理前の状態

経年による汚れの付着が著しい。虫の糞や卵の付着が見られる。

修理方針

本紙を取り外したのちに濾過水を画面側から噴霧し、本紙下に敷き重ねた吸取紙に溶け出した汚れを移し取らせる方法でクリーニングを行う。

修理前

修理後

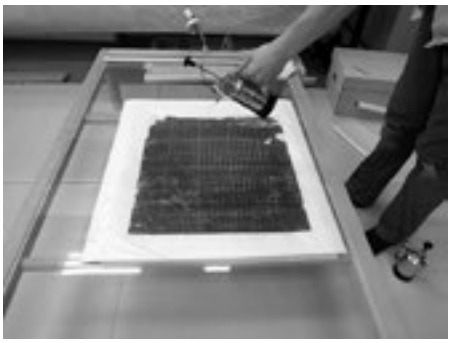
Ⅵ. 修理工程

１．修理前調査
デジタルカメラによる写真撮影、損傷等を調査し、修理前の状態の記録を行った。

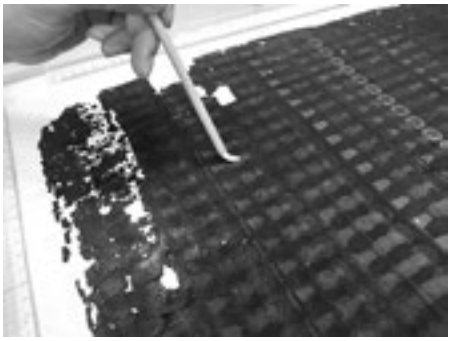
２．表養生
常温抽出布海苔とレーヨン紙を使用して、本紙に表養生を施し画面を保護した。

３．剥ぎ取り
水を与えて糊を膨潤させて背板より絵画面を取り外した。

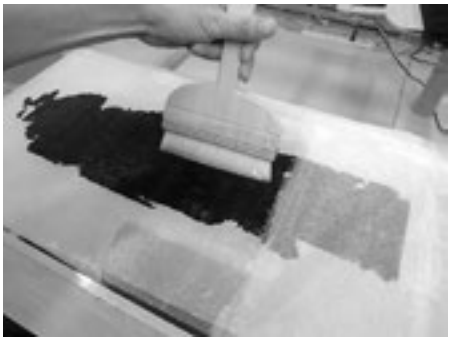
４．クリーニング
本紙表面から濾過水を噴霧し、溶け出した汚れを下に敷いた吸取紙に吸収させる方法でクリーニングを行った。



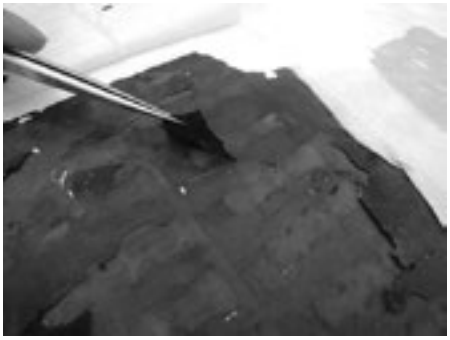
５．剥落止め
兎膠水溶液(2%)等の接着剤を使用して彩色層の剥落止めを行った。



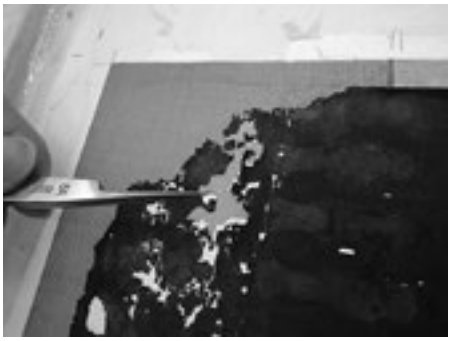
６．表打ち
常温抽出布海苔とレーヨン紙を使用して、本紙に表打ちを施し画面を保護、固定した。乾燥後透過台に張り込んだ。



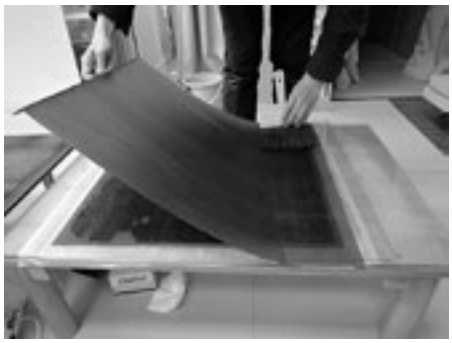
７．旧肌裏紙除去
部分的に加湿して旧肌裏紙を除去した。



８．補絹
本紙欠失箇所に、本紙料絹と織り目を合わせた電子線劣化絹を使用して、裏面から補絹を施した。



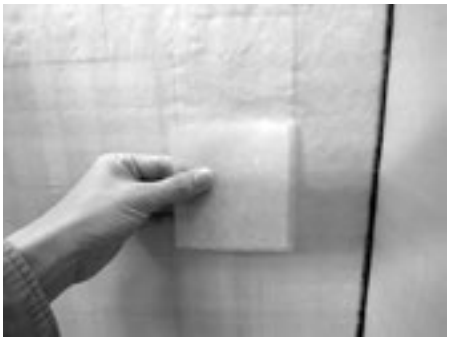
９．肌裏打ち
本紙の色合いに合わせて染色した薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを施した。強度を保つため裏打ちは２回行った。



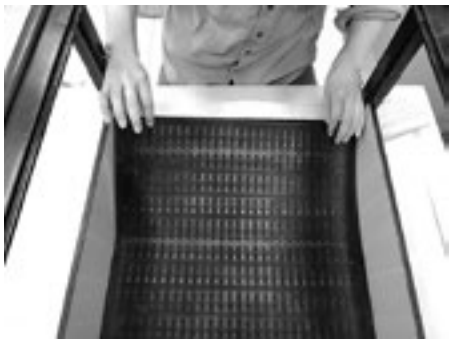
10. 裏打ち
本紙の酸化による劣化を軽減するために炭酸カルシウムを添加した楮紙にて、小麦澱粉糊を用い３回目の裏打ちを施して仮張りした。

11. 補彩
新たに補絹を施した箇所にのみ本紙料絹の地色に合わせた補彩を施した。

12. 下張り
楮紙にて2種4層(田の字1層、浮け3層)の下張りを施した。



13. 貼り込み
下張りの終わった下地に本紙を小麦澱粉糊を用いて貼り込みを行った。



14. 保存修理報告書作成
修理前中後の記録を整理し、報告書を作成した。

Ⅶ. 修理中、後の所見・ポリライト撮影についてはカラー口絵p.5参照

・左右側面について

両側面の欠失箇所に貼り付けられていた断片は全て取り外し別保存することが所有者との協議で決定した。取り外した断片は左右それぞれにマット装に装丁し中性紙保存箱に納入した。

左側面　断片

右側面　断片

・断片

厨子内の柱や扉に多くの断片が付着していた。

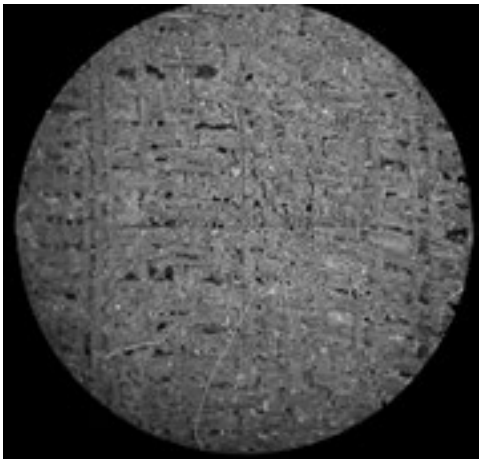
位置を記録した後に取り外し、別保存とした。

養生に包み個別に包装した。

・右側面下部の断片について

過去の修理時に施された復元的な補絹が貼り付けられていた。裏打紙は無く絹のみで貼り付けられているため現状維持とした。この断片が貼られている部分の板に割れが生じているため、側面本紙はこの断片を避けるように貼り込みを行った。

・本紙料絹



50倍

・旧肌裏紙除去後の本紙裏面　p.6参照
・損傷図　p.7参照
・蛍光X線分析箇所　p.8参照

《黒漆厨子》内部「千体観音図」（修理報告書より抜粋）

（株）文化財保存

修理前

修理後

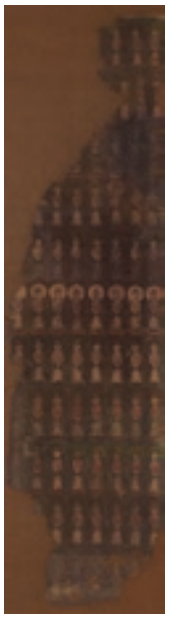
右側壁面

修理前

修理後

左側壁面

修理前

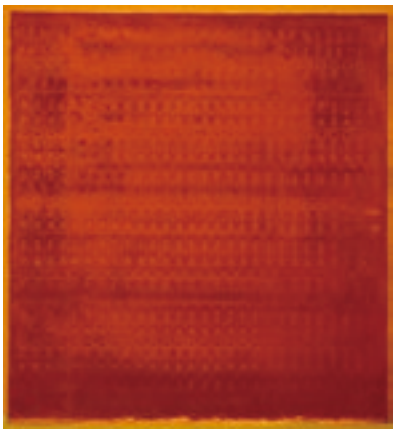


修理後

ポリライト撮影

修理前の調査にて励起光を用いた撮影を行った。本紙料絹が失われている正面及び側面扉に千体観音像の図像が現れ全ての面に同様の絵画が存在していたことが分かった。

左側面



剥ぎ取り後　正面

右側面

左扉内側

右扉内側

旧肌裏紙除去後の本紙裏面

正面

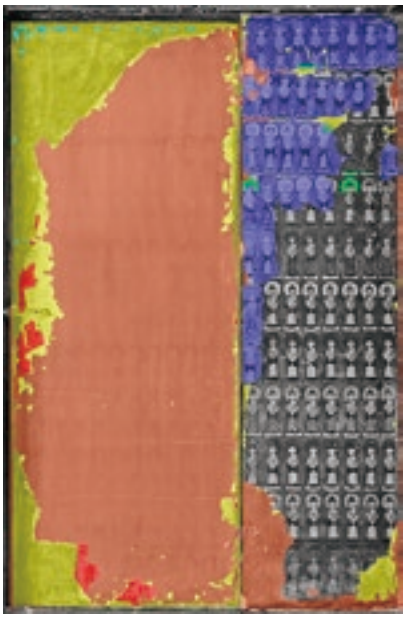
左側壁面

右側壁面

損傷図

正面

- 木地露出
- 本紙断片
- 貼り付け本紙断片
- 裏打紙露出
- 補彩
- 復元後補



左側面

右側面

蛍光X線分析箇所

右側面

左側面（裏面）